

令和6年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 川北町 (都道府県: 石川県)

1. 当該地域の情報 (令和 7 年 1 月現在)

地域の課題	定住する外国人は一定の割合存在しているものの、日本語学習ニーズ等現状把握ができていない状況である。また、地域では外国人住民の存在が住民に認知されていない。さらに、町全体として国際交流・多文化共生に対する取組がこれまでほぼ行われてこなかったことから、日本語教室の必要性についての認識・理解が深まっていない。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】67 人 【外国人比率】1.11%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】ベトナム 46 人 インドネシア 11 人 ネパール 4 人 中国 1 人 ニュージーランド 1 人 ミャンマー 1 人 タイ 1 人 カナダ 1 人 ブラジル 1 人 【在留資格】技能実習 47 人 特定技能 1 号 11 人 永住者 3 人 家族滞在 2 人 介護 2 人 技術・人文知識・国際業務 1 人 教育 1 人 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生が多く、中長期滞在者のうち比較的滞在期間が短い人が多い傾向が見られる。
在住外国人の 日本語教育の現状	令和5年度より日本語教室「なでしこ日本語ひろば」を月に1回の頻度で開催している。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	4 年目			
事業の目的	日本人住民と外国人住民の間でのトラブルが起きないように、第一に相互理解を深め信頼関係を築くことが大事であると考え、外国人住民を対象とする日本語教室を立ち上げ、外国人の日本語学習を支援するとともに、外国人住民と日本人住民との交流の機会を通して、お互いの文化や習慣・マナーを理解しあい、信頼関係を熟成し、住み良い多文化共生社会づくりに取り組んでいきたいと考えている。			
事業の概要	アドバイザー会議 4 回、コーディネーター会議 8 回、日本語教室・振り返り 10 回、職員向けの日本語教室理解促進のための講演会 1 回を実施できた。			
事業の対象期間	令和6年4月～令和7年3月			
前年度の実績 (2 年目以降の団体のみ記載)	アドバイザー会議 3 回、コーディネーター会議 8 回、日本語教室・反省会 7 回、石川県地域日本語教室大会参加、コーディネーター情報交換会参加、日本語教室理解のための講演 1 回、教室運営者を対象とした「やさしい日本語講座」1 回を実施した。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	高本 博美	川北町国際交流の会「虹のかけはし」	会員	事業全体のコーディネート、資料作成
	吉田 晃子	川北町国際交流の会「虹のかけはし」	会員	事業全体のコーディネート、資料作成

	氏名	所属	職名	継続・新規の別
担当アドバイザー	関口 明子	公益社団法人国際 日本語普及協会	理事	継続 新規（ 4 年目）
	石津 みなと	石川県国際交流協 会にほんご課	地域日本語教育 総括コーディネ ーター	継続 新規（ 4 年目）
	菊池 哲佳	桜美林大学グロー バル・コミュニケ ーション学群	准教授	継続 新規（ 3 年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制			
	所属（担当課）	職名	担当者名
	社会教育課	主事	長岡 昂吉
	住民課	係長	喜多 孝行
	川北町商工会	事務局長	田中 博文

（2）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制			
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
虹のかけはし（川北町国際交 流ボランティア団体）	川北町教育委員会 社 会教育課	会長	南 由紀

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの 主な活動	アドバイザーによる 助言・指導
令和6年 4月	・年間計画の作成	年間の教室計画を考えるための 打合せ	
令和6年 5月	・事業計画書の作成 ・アドバイザー会議にて、事業 目的や事業計画を確認 ・第1回教室開催の打合せ ・第1回教室開催、振返り	事業計画を考えるための打合せ 第1回教室開催のための打合せ 第1回教室開催 第1回教室の振返り	事業計画の内容確認・助 言 第1回教室の視察・助言
令和6年 6月	・第2回教室開催の打合せ ・第2回教室開催、振返り	第2回教室開催のための打合せ 第2回教室開催 第2回教室の振返り	
令和6年 7月	・第3回教室開催の打合せ ・第3回教室開催、振返り ・他市町日本語教室視察 ・第4回教室開催の打合せ	第3回教室開催のための打合せ 第3回教室開催 第3回教室の振返り 他市町日本語教室視察 第4回教室開催のための打合せ	
令和6年 8月	・第4回教室開催	第4回教室開催	
令和6年 9月	・第5回教室開催の打合せ ・第5回教室開催、振返り ・アドバイザー会議にて、進捗 を確認	第5回教室開催のための打合せ 第5回教室開催 第5回教室の振返り	9月までの活動の振返り 10月からの活動への助言
令和6年 10月	・第6回教室開催の打合せ ・第6回教室開催、振返り	第6回教室開催のための打合せ 第6回教室開催 第6回教室の振返り	
令和6年 11月	・第7回教室開催の打合せ ・第7回教室開催、振返り ・職員向け日本語教室理解促進 のための講演	第7回教室開催のための打合せ 第7回教室開催 第7回教室の振返り	第7回教室の視察・助言
令和6年 12月	・第8回教室開催の打合せ ・第8回教室開催、振返り ・アドバイザー会議にて、進捗 を確認	第8回教室開催のための打合せ 第8回教室開催 第8回教室の振返り	12月までの活動の振返り 1月からの活動への助言
令和7年 1月	・第9回教室開催の打合せ ・第9回教室開催、振返り	第9回教室開催のための打合せ 第9回教室開催 第9回教室の振返り	第9回教室の視察・助言
令和7年 2月	・第10回教室開催の打合せ ・第10回教室開催、振返り ・来年度の計画方針	第10回教室開催のための打合せ 第10回教室開催 第10回教室の振返り	
令和7年	・アドバイザー会議にて、今年 度の振返り		年間の振返り 来年度活動への助言

3 月			
-----	--	--	--

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	なでしこ日本語ひろば		
外国人参加者について	〔国籍〕 ベトナム人 23 名（延べ人数） 〔属性〕 技能実習生が主		
参加者数 （内 外国 人数）	受講者 40 名（平均 2 名/1 回）（外国人 23 人） 支援者 42 名（平均 4 名/1 回） （日本語指導者 1 名、サポーター7 名）		
開催時間数	総時間 15.5 時間	内訳 1.5 時間×7 回、1.0 時間×1 回、2.0 時間×2 回	
開催頻度	1 回/月		
目標	『実用性のある内容』で『人間関係をつくれる』『町民に認知してもらえる』教室		

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2024 年 5 月 25 日 (土) 10:00~11:30	1.5	文化センター周辺	1	ワークシートに基づいて、各施設で質問	・アイスブレイク ・内容説明 ・温泉、図書館、飲食店、産直物産館を巡り、店員に質問	教室運営者 4 名 サポーター 1 名
2	2024 年 6 月 29 日 (土) 10:00~11:30	1.5	文化センター	1	病院で使える日本語	・アイスブレイク ・症状を伝える練習 ・医者 of 指示を聞く練習 ・問診票の記入練習	教室運営者 3 名
3	2024 年 7 月 27 日 (土) 10:00~11:30	1.5	文化センター	2	季節と天気に関する日本語	・アイスブレイク ・天気 of 話題に触れ挨拶する練習 ・天気予報を聞く練習 ・天気に関する SNS の書き込みを読む練習	教室運営者 3 名
4	2024 年 8 月 31 日 (土) 09:30~11:30	2	ベトナム料理店	1	会話練習	以下のテーマで会話を練習 ・日本語学習 ・文化や食の違い	教室運営者 3 名
5	2024 年 9 月 28 日 (土) 10:00~11:30	1.5	文化センター	2	休みの日の過ごし方に関する日本語	・アイスブレイク ・趣味を話す練習 ・休日について会話練習 ・趣味紹介を含んだ自己紹介文作成練習	教室運営者 3 名
6	2024 年 10 月 12 日 (土) 10:10~11:40	1.5	文化センター	3	イベントに関する日本語	・アイスブレイク ・イベント of チラシを読み取る練習 ・イベント会場で使う日本語練習 ・実際のチラシで読み取り練習	教室運営者 3 名
7	2024 年 11 月 23 日 (土) 13:30~15:30	2	文化センター周辺	2	ワークシートに基づいて、各施設で質問	・アイスブレイク ・内容説明 ・温泉、図書館、飲食店、産直物産館を巡り、店員に質問 ・質問内容等共有	教室運営者 3 名 サポーター 4 名

8	2024 年 12 月 15 日 (日) 10:30～11:30	1	文化センター	2	友達を誘って出かけるための日本語	・アイスブレイク ・誘うための会話練習 ・次の予定を話し合う会話練習	教室運営者 3 名 サポーター 2 名
9	2025 年 1 月 26 日(日) 10:00～11:30	1.5	書道教室	5	書初めを体験しながら会話練習	・内容説明 ・自分で選んだ文字を書く練習 ・各自日本語で質問	教室運営者 4 名 サポーター 3 名
10	2025 年 2 月 22 日(土) 10:00～11:30	1.5	文化センター	4	スポーツを体験し感想を話し合う	・モルック体験 ・休みの日にしたこと感想を話し合う練習	教室運営者 3 名

【主な活動】



1 月 書道体験にて漢字を練習する様子



11 月 施設の担当者へ質問する様子



2 月 会話練習をする様子

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	本年は常連参加者が確保でき、安定的に教室開催ができた。しかし、実習生が多いという性質上、滞在期間が限定的であるため、企業への参加者募集は引き続き実施し、参加者自身にも情報を拡散してもらい、参加者の確保に努める。
--------------------	---

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
多文化共創セミナー	令和 6 年 11 月 22 日(金) 15:00～16:00	本庁全体の職員の日本語教室理解促進のため実施した。 【内容】 タイトル： 「多文化共創社会と日本～地域の日本語教室の必要性～」 文化の多様性や日本語教室の必要性について話した。
町イベントへの参加	令和 6 年 6 月～11 月 (3 回)	教室参加者へ案内し、町のイベントへ「なでしこ日本語ひろば」として参加した。 6 月 ウォーキング大会 7 月 鮎のつかみ取り 11 月 町文化祭
他市町日本語教室視察	令和 6 年 7 月 6 日(土)	日本語教室運営の参考とするため、近隣である白山市の日本語教室の視察を行った。

【主な活動】



7 月 鮎のつかみ取りに参加



11 月 多文化共創セミナーの様子



11 月 文化祭に参加

5. 今年度事業全体について

事業推進にあたり問題点と対応策	サポーター数が少なく、活動数を増やせないという問題がある。町広報等で引き続き募集し、サポーター養成講座を実施していく。
成果	(1) 域内の日本語教育の提供状況 ①日本語教室の立ち上げ () 立ち上げが終わっていない () 立ち上げが終わった (✓) 運営の安定化が実現した ②日本語教室の特徴 文化やスポーツ等の体験活動と会話練習を組み合わせ、生活のための日本語学習を行っている。 (2) その他の取組の状況 町のイベントへの参加を呼びかける等し、町民と外国人が接するきっかけを増やすことができた。また、本庁内の認識として、日本語教室の重要性を共有できた。
地域の関係者との連携による効果	町内企業を通じた外国人就労者への教室周知により、参加者を確保でき、常連の参加者も現れた。また、町国際交流ボランティア団体には、文化祭活動に教室参加者を招いてもらい、外国人と町民が接する機会をつくることができた。
コーディネーターの主な活動	① 教室の案内チラシ作成、多言語化 ② 教室活動内容の立案 ③ 教室で使用する資料作成 ④ 教室の会場準備 ⑤ 教室の運営 ⑥ 教室後の振返り
アドバイザーの主な助言	① 日本語教室開催及び運営のための助言 ② 人材育成のための助言
今後の課題	・参加者の確保について 本年度は常連参加者の存在が大きく、教室を安定開催することができた。しかし、常連参加者は実習生なので長期間の参加は期待できない。引き続き、新しい参加者を増やし、常連参加者の数を増やしていく。 ・教室回数について 現状は月に 1 回開催の頻度で行っており、日本語学習の観点では頻度が足りていない。頻度を増やしていくためにはマンパワーが不足している。本年は、2 人がサポーター候補として教室の見学や体験を行った。来年度はサポーターとして本格的に動いてもらえるように養成講座を実施する。そして、引き続きサポーターを募集する。 ・教室運営について 現状は、川北町職員 2 名、コーディネーター 2 名で教室を運営している。今後は持続可能な運営にするための検討が求められる。具体的には、コーディネーターと町職員の役割分担を明確にする、町民サポーターを募ることで運営母体を充足させる等、教室が持続するための柔軟な運営が求められる。 ・文化共生へ取り組むための教室について 日本語教室が安定開催されるようになったが、多文化共生の町づくりを目指すには、今後町や国際交流団体、企業等が一層連携し、町の教室として位置付けを明確にする必要がある。教育委員会、住民課や商工会、企業との定期的な情報交換を行う等が求められる。

今後の予定	(1) 今後の日本語教育事業の展開について ①日本語教室の展開 同様に実施していく。 ②日本語教室の実施主体と行政の関与について 行政が主体となって実施していく。 ③財源の確保について 来年度の予算は要求済み。 (2) 今後の予定（取組等） 継続的な教室の開催、サポーターの確保、中心となる学習者の発掘、 コーディネーター・サポーター等の人材育成、補助金の申請
--------------	---

本件担当： 川北町教育委員会 社会教育課